

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	キッズサポートクラブあしたばプラス		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 10日	～	2025年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 17名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 10日	～	2025年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	異年齢の小集団で過ごす中で「感情のコントロール」や「相手を思いやる心」「気持ちの切り替え」を活動や遊びの中で体験し、学んだことが直ぐに学校生活で活かせるための支援を行っている。	日々の活動内容や遊びのルールなどを子どもたち同士で話し合いながら決定する機会を多く設けている(子ども会議)。 子どもたち自身が決定することで「責任感」や「達成感」を感じやすいよう職員が支援し、自己肯定感に繋がると意識している。	学校でも家庭でもない「第3の居場所」として、子どもたちがリラックスして過ごせる為の環境整備をさらに進めていく。 また、お出掛け行事や体験活動(料理、製作など)のさらなる充実を図り、地域の行事などにも積極的に参加していきたい。
2	軽度発達障害の利用者が多いことから、活動プログラムや外出について選択肢が多いと考える。常に新しい活動や行事に挑戦することで、子どもたちが生きていく上で必要な経験を積み重ね、「生きる力」の育成と療育を両立させることを目標に支援を計画している。	・クッキング体験の際には出来る限り子どもたち自身で体験できるよう、職員は後方支援に当たっている。 ※火を扱う工程は職員や高校生以上の利用者が行っている。 ・お出掛け行事の際には、施設職員の方に行き帰りの挨拶をさせるなど、基本的な生活習慣が身に付はれるよう	事業所周辺の清掃活動(クリーンアップ作戦)を行うことで、地域住民や商業施設の方にも事業所と子どもたちの存在を知ってもらえるよう計画している。
3	事業所職員の離職率が低いことから、利用者に対して長く支援に関わることで保護者との信頼関係をより深めることに繋がっていると感じる。	職員一人ひとりが「働きやすい」環境作りを進めるため、職員同士の信頼関係作りを強化し、何でも言い合える関係性の構築を重視してきた。職員の笑顔が増えることで保護者や子どもたちに安心感を与えることに繋がるということを常に意識している。	保護者との「話しやすい」「相談しやすい」関係性を作ることで、利用者本人の課題や支援内容についてさらに細かく検討できるよう、職員全体の資質を高めていきたい。また、家族支援についても視野を広げ、「もっと出来ることはないか」前向きに考える意識を高めていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個々の家庭と事業所職員との信頼関係は築けていると感じているが、保護者同士の横の繋がりについては全く築けていない。	プライバシー保護の観点から、敢えて保護者同士が顔を合わせるような機会(保護者会や親子活動など)を設けてこなかった。	アンケートの結果から、「保護者会などの機会があれば参加してみたい」という声も聞かれた。次年度は年に1~2回程度保護者が参加出来る活動プログラムや保護者説明会などを計画し、実施していきたい。
2	「地域資源の活用」や「他事業所との関わり」についてあまり実践できていない。	放課後等デイサービス(障がい児通所支援事業所)に対する世間一般の理解や保護者の考えを意識し過ぎた結果、こちらから積極的に地域や他事業所との関わりを持つために動くことが出来ていなかった。	地域のお祭りやイベントに出向くだけでなく、ボランティア活動として参加出来ないか、子どもたちが出来るお手伝いや遊びのコーナーなどを立案し、関係機関と相談しながら実現に向けて計画していきたい。
3			